

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

	ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業		担当部局庁	スポーツ庁		作成責任者			
事業開始年度	令和4年度	事業終了 (予定) 年度	担当課室	参事官(国際担当)付		参事官(国際担当) 八木 和広			
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-		関係する 計画、通知等	第3期スポーツ基本計画(令和4年3月25日策定) 自民党スポーツ立国調査会決議(令和3年12月8日) 経済財政運営と改革の基本方針2021(骨太方針2021)(令和 3年6月18日策定) SDGsアクションプラン(令和3年12月策定)					
主要政策・施策	-		主要経費	文教及び科学振興					
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度以 内)	今後国内外で開催される様々な国際競技大会を念頭におきつつ、2020年東京大会の開催国として、スポーツを通じた国際交流・協力等に官民協力で取り組んできた「スポーツ・フォー・トゥモロー(SFT)」プログラムによるレガシー(裨益者数:204か国・地域、約1,200万人)を発展させ、国際的に日本のスポーツの存在感を示すとともに、国際的な課題である持続可能な開発目標(SDGs)の達成にも貢献するため、官民協力による取組を先導し、成果を国内還元する「ポストスポーツ・フォー・トゥモロー(ポストSFT)」プログラムを実施する。								
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	(1)国際協力コンソーシアム(SFTコンソーシアム)のネットワーク継続・発展 SFT事業を通じて構築したネットワークを維持・発展させるため、国内会員/一般向けのプラットフォームを更に充実させるとともに、国際スポーツ界等への成果発信を通じて対外的な日本のプレゼンスの向上を図る (2)官民連携によるスポーツ国際交流・協力の取組を先導する、日本の強みを活かしたリーディング事業の実施 ①スポーツを通じたパートナーシップ推進事業、②スポーツを通じたジェンダー平等推進事業、③スポーツを通じた共生社会推進事業、④オリパラレガシー還元事業(国内人材の育成)など								
実施方法	委託・請負								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	-	-	-	178.2	250		
		補正予算	-	-	-				
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-				
		予備費等	-	-	-				
		計	0	0	0	178.2	250		
	執行額		0	0	0				
	執行率(%)		-	-	-				
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)		-	-	-					
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目		令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由				
	スポーツ振興事業委託費		175.2	247.7	来年度より実施する「国際情勢に応じた海外アスリート等支援事業」(72百万円)によって、令和4年度当初予算より72百万円増額。				
	職員旅費		3	2.3					
	計		178.2	250					
活動内容 (アクティビ ティ)	(1)国際協力コンソーシアム(SFTコンソーシアム)のネットワーク継続・発展 SFT事業を通じて構築したネットワークを維持・発展させるため、国内会員/一般向けのプラットフォームを更に充実させるとともに、国際スポーツ界等への成果発信を通じて対外的な日本のプレゼンスの向上を図る								
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
	SFTコンソーシアム事務局を中心とした会員ネットワークの発展	SFTコンソーシアムの新規会員数(累計)	活動実績	団体	-	-	-		
			当初見込み	団体	-	-	-	30	
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	(ポストSFT事業執行額)/(SFTコンソーシアムの会員数)			単位当たり コスト	千円	-	-	-	
				計算式	千円/団体	-	-	-	
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 6 年度	目標最終年度 8 年度
	SFTコンソーシアム会員による実施事業の増加	SFTコンソーシアム会員が実施する事業の数	成果実績	件	-	-	-		
			目標値	件	-	-	-	1,500	2,500
			達成度	%	-	-	-		
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	事業委託先からの報告書、情報提供								

活動内容 (アクティビティ)		(2)官民連携によるスポーツ国際交流・協力の取組を先導する、日本の強みを活かしたリーディング事業の実施 ①スポーツを通じたパートナーシップ推進事業、②スポーツを通じたジェンダー平等推進事業、③スポーツを通じた共生社会推進事業、④オリパラレガシー還元事業(国内人材の育成)など								
活動目標及び活動実績 (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
		リーディング事業を通じたスポーツ国際交流・協力の推進	SFTリーディング事業参画団体数(累積)	活動実績	団体	-	-	-		
単位当たりコスト		算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
		(ポストSFT事業執行額) / (SFTレガシーリーディング事業に参画した団体数)		単位当たりコスト	千円	-	-	-		
定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標を設定できない理由及び定性的な成果目標	定量的な目標が設定できない理由			定性的な成果目標と令和元年～令和3年度の達成状況・実績					
	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	各国の状況や開発レベル、また事業内容によって課題が異なるため、事業効果を統一した指標で測ることが困難								
事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
	各該当分野(課題)における阻害要因を関係機関・関係国と協議の上で具体的な成果目標を適切に設定	各該当分野(課題)における阻害要因を関係機関・関係国と協議の上で設定した具体的な成果目標に対する指標	実績		-	-	-			
			目標値		-	-	-			
			達成度	%	-	-	-			
活動内容 (アクティビティ)		(1)及び(2)の活動における共通事項								
活動目標及び活動実績 (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
		持続可能なスポーツを通じた国際交流・協力の推進	ポストSFT事業実施により交流した国・地域数(累計)	活動実績		-	-	-		
活動目標及び活動実績 (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
		持続可能なスポーツを通じた国際交流・協力の推進	ポストSFT事業実施による裨益者数(累計)	活動実績		-	-	-		
				当初見込み		-	-	-	1,400,000	
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	11 スポーツの振興								
	施策	11-2 スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現	政策評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20211220-mxt_kanseisk02-000019646_11-2.pdf						
			該当箇所	6ページ						
	取組事項	分野:	-							
		(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:								
		該当箇所								

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	スポーツ・フォー・トゥモローは事業に参画した対象国やSFTの運営委員会でも高い評価を受け、かつ、第3期スポーツ基本計画等様々なところでその継続性の重要性が指摘されている。このため、東京大会の終了をふまえ、引き続き実施する事業を精査して実施していくものである。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業の実施に当たっては、国際交流関係団体、地方公共団体、大学、各地の体育協会等と連携を図りながら、事業を進める必要があることから、国が総合的に推進していく必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	第3期スポーツ基本計画において、施策目標として「SFT事業を通じて培われた官民ネットワークの活用等により、スポーツを通じた国際協力による存在感の発揮やSDGsの達成に貢献し、世界中の国々の700万人の人々への裨益を目指す。」と掲げ、具体的な施策として、「国は、スポーツ分野の政府間国際協力を引き続き推進する。また、地域間の相互理解を深めるため、人材交流を支援する。」と明記していることから、政策の優先度が極めて高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	支出(委託)先の選定に当たっては、十分な公告期間を確保した上で公募(企画競争)を実施しており、その妥当性や競争性を確保している。結果として一者応募になった事業については、今後は公募の時点で、応札可能な機関に働きかけなど、応募者を増やす努力をする。なお、委託事業の契約及び委託額の確定手続きに当たっては、事業経費の費目・使途の内容を厳正に審査するなど、その必要性について適切にチェックを行っているところである。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	支出内容が同様の内容の場合には、単位当たりコストが低減するよう進めている。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	契約・確定手続きの段階で資料を精査し、判断を行っている。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	契約・確定手続きの段階で資料を精査し、判断を行っている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	契約の段階で事業計画に即した費用が計上されているか、審査し、精算の段階においても再度審査を行うことで、支払額を削減する努力をしている。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	-
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	事業者(委託先)と協議を行い、効率的かつ実効性の高い運用を行っている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	-
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	-
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	-
	事業番号	事業名	
点検・改善結果	点検結果	本事業は、今後限られた予算を有効活用しながら、より成果の創出(各SFTC会員が実施する事業の定着・継続による自走化)がはかられるよう、運営体制も含め検討・改善をすることが必要である。	
	改善の方向性	自走化に向けた取り組みを評価する指標を設定するなどして、事業の定着・継続に向けた動きを確認できるよう改善を行うこととする。	

外部有識者の所見

外部有識者による点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

この事業は外部有識者の所見を踏まえ、事業設計及び成果指標の見直しの検討をすべきである。また他省庁も含め重複する事業がないかも確認し、現在の事業のあり方が最も効果的なのかどうか検証すべきである。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

課題別の事業を実施するのではなく、より団体の主体性を促せるよう事業を公募し、団体の戦略や方針に沿ったSFT事業の実施を求めるものとする(団体の自走化に向けた取り組みのプロセスを評価できる指標を設けるなど、事業内容を再設計)。
なお、各団体の能力向上に向けては、事業実施にかかるアドバイス機能を設置することなどで調整中。

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				
平成28年度				
平成29年度				
平成30年度				
令和元年度				
令和2年度	文部科学省			
令和3年度	2021 文科 新22 0027			

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

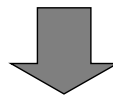
スポーツ庁
178.2百万円

職員旅費 3百万円を含む

2020年東京大会の開催国として、スポーツを通じた国際交流・協力等に官民協力で取り組んできた「スポーツ・フォー・トゥモロー(SFT)」プログラムによるレガシー(裨益者数:204か国・地域、約1,200万人)を発展させ、国際的に日本のスポーツの存在感を示すとともに、国際的な課題である持続可能な開発目標(SDGs)の達成にも貢献するため、官民協力による取組を先導し、成果を国内還元する「ポスト・スポーツ・フォー・トゥモロー(ポストSFT)」プログラムを実施する。

委託【随意契約(企画競争)】

A. 委託先: (独)日本スポーツ振興センター					
SFTCネットワーク継続 (事務局機能含) 89百万円		SFTレガシーリーディング事業 86百万円			
コンソーシアムメンバーのネットワーク連	国内外ネットワークを活用した情報収集・分	スポーツを通じたパートナーシップ推	スポーツを通じたジェンダー平等推	スポーツを通じた共生社会	オリパラレガシー還元事業
事業効果の向上方策の検討・実践	国際スポーツ界等への成果発信・広報	「ASIA(強化拠点連合)」及びASEAN/バラ等での連携事業の実施(次世代アスリート交流、アーバンスポーツ等)	日ASEANスポーツ大臣会合の枠組みに基づく女性スポーツ協力事業の推進等	「#WeThe15」を踏まえたJPCとの連携による「I'm Possible」を活用した事業展開	SFTスポーツアカデミー修了生を活用した国内人材の育成、リカレント研修等



再委託先(5団体を想定)

- ①女性スポーツの研究を有する大学機関
- ②国際スポーツに関する知見を有する大学機関
- ③共生社会推進事業に係るホストタウン3自治体

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・用途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)	A.(独)日本スポーツ振興センター			B.		
	費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
	賃金	コーディネーター賃金等	33.5			
	諸謝金	ワークショップ・シンポジウム・講演謝金	8.9			
	旅費	海外派遣費、キャンプ旅費等	4.6			
	借損料	会場、会議室利用料等	13.5			
	印刷製本費	年次報告書	5.7			
	消耗品費、会議費、通信運	コロナ感染症対策、事務局関連の消耗品・通信費・郵送料	2.7			
	雑役務費	ロゴ・マテリアル制作費、情報提供業務委託、PR委託、通訳・翻訳業務等	42.7			
	消費税相当額	消費税相当額	3.8			
一般管理費	一般管理費	9.7				
再委託費	リーディング事業再委託費	50				
計		175.2	計		0	

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(独)日本スポーツ振興センター	5011105002256	SFTCネットワーク継続・SFTレガシーリーディング事業	175.2	随意契約 (企画競争)	1	100%	-

